

「第4回・銀座書前入居ビル 清掃活動」(年末の大掃除)レポート

2018年12月30日(日) 実施

2019年1月5日(土) 提出

英語道弟子課程弟子 H.K.

「第4回・銀座書斎入居ビル 清掃活動」(年末の大掃除) リポート

2018年12月30日(日)、一年の汚れを落とし、年を越す準備として、銀座書斎入居ビルの共用スペースである階段の大掃除を担当させていただきました。

以下において、当日考えたこと等をまとめました。

(きっかけ)

2018年11月、弟子の清掃当番の日、清掃を開始後 間もなく、数時間が必要だと思いましたが、すべてを急いで清掃することに集中したため、終了後、バの中にも「これも掃除したい、もっとやりたい」という気持ちが残っていました。その時、「年末の大掃除を申し出よう」と思いました。

そのうち、公式サイトを通じて、生井先生より清掃のことや、先生のお気持ちを窺い、又、見学していただいた講義の復習を通して、「私自身がとてもお世話になっている建物であり、階段なのだから、使わせていただいたところを清掃したい、お世話になったことへの御礼をしたい。」と 思ってきました。

そして、先生に電話をし、「もし、ビル側で、共用部分の清掃の予定が無ければ、やらせていただきたい。」と申し出ました。

すると、先生は「毎年わたしがやっています。」と仰いました。

私が大反省すべきは、10年以上も通っているのに、今年になるまで、大掃除について 考えなかったことです。建物の階段と、銀座書斎の大掃除について、他人任せ、でした。

どうして 今の今まで 考えなかったのか。

やはり... お客様気分が 拭き切れていないからだと 考えました。

「先生の教室」、「先生の学問所」、「先生が場を作っている」と思っていた、という 証です。

先生は、何年も前から、いや、始めから、「そうではない。」「お客様気分に来るのは、容赦しない。」と 教え続けてくださっていたのに、私は、「先生が 作ってくれる。私はそこに通えばいい」と言わんばかりの行動をしていた、という ことです。

使用して汚れたところを掃除するのは当たり前。なのに、自分を客観視できていませんでした。いかに自分が受け身でいたかを思い、反省しました。

(清掃に関して)

清掃中に考えていたこと・湧いてくることは、次の2つでした。

- この建物 - 階段への感謝の気持ち
- 生井利率先生の事。

階段が無ければ、5階へは行けません。

そのことも、先生から、そっくりそのままの言葉で言われたことがありました。階段というものは、本当にありがたいものだなー、としみじみ、思いました。はしごではなくて、しっかりした階段なのです。だから、一段ずつ、一歩ずつ、踏み出して、上って行って、5階に辿り着けるのです。

掃除をしなければ、階段の有難みを考えることはありませんでした。又、生井先生からの様々な教えとも繋がっていました。

それから、生井先生が、最初から、ずーっと掃除・大掃除をされていたこと、そして、そのことについては、何も言わずに、黙っておられたことを考えていました。どんな事を思い、どんなことを考えて、どんな気持ちで掃除されていたのか。ニコニコと、学習者を待たされていたのか。恐れを感じました。

今回の掃除から、次回に活かそうと思おうのは、掃除の手順です。埃が出るところから掃除を始めると、効率がよい、ということです。埃が落ちてくる(降ってくる)ところ、舞い上がる場所を最初にやるとういことです。

具体的には、各階・踊り場の電気の上(カバーの上面)、窓のさん、1階のポストの上、メーター類の上です。

一番汚れているところは、入口と、1階から2階へ行く間、でした。デッキブラシで磨けば磨くほど、水が黒くなっていきます。入居しているテナントさんの事情もありますが、やはり一番は、人の出入りが最も多い箇所だから、です。1階の入口から入る人・出る人が、必ず通る場所、という、ごく当たり前のことについても、掃除をし、「汚れがなかなか落ちないな」と感じなければ、気付かなかったことでした。

入居するすべての会社の経営者の方々が、どのような気持ちでここを通り、ご自分の会社へ行くのか、と想像しました。

私自身、掃除は好きなほうでは無かったと思います。
しかし、銀座書齋で、学びとして掃除をさせていたとき、楽しみながら行くと、
自分が埃をかぶることも、吸うことも、咳でケホケホとしてしまうのも、
床に手を付くことも（T.A.さんは自然にそうされていたと伺いました）、
膝を付くことも、全然、苦ではありませんでした。

それよりも、自分の使ったところをきれいにすることで、ありがとうを言いたい気持ちで一杯でした。その機会を自分に賦与してくださった先生には、
本当にありがたい気持ちでいっぱいです。

先生に、勉強することを通して、賦与された生を哲学して生きることをご指導
いただいています。

本当の意味での 自分の存在価値って、何なのか。
本当の意味での 自分の生って、何なのか。

一生懸命に勉強することはもちろんで、「自分を使う」「自分を何かに
役立てる」「相手(他人)がいてもいなくても、自分を使って、今すべきことを
全力で行う」ということについて、清掃活動から、実際に、生を哲学させて
いただいていたのだ、とわかりました。頭の中で考えるだけではなく、実際に、
自分の体で、自分の生を使うことが、そうすることだ、と思いました。

改めて考えますと、数年前までの私（生井利幸先生に出会う前）では、
気付くことは不可能でした。同じ行為を行っていても、命がかりませんでした。

自分の体を使わせていただけることは、本当に幸せでした。喜びでした。

以前の私に、「清掃をして、幸せを実感する」ことがあったでしょうか。
勿論、無かったです。掃除は、掃除にすぎなかったですし、それ以上や
それ以外に何かがあるかなんて想像できなかったです。

着飾って、おしゃれしてきれいにして銀座に来て、ショッピングして、美味しい
スイーツを食べて贅沢な気分を味わっている人よりも、ず——っと贅沢な
糸至馬鹿をさせていただきました。

掃除をしたことで、どのように高価な物品やお金にも換えることの
できない、贅沢な、心の豊かさを、逆にいただくことになりました。

掃除をして、幸せな気持ちになる。それも、一瞬で消えないような、持続する
幸福感を得る... という経験は、先生に出会う前までの私の人生には、
起り得なかったことです。

この世の中で、生井先生に出会えない人のほうが多いと思います。

過去に、先生の下で学ばれた方、ご著書や講演会を通じてはもちろんのこと、多くの方が先生に会っていらっしゃいますが、個人指導を直接受けることのできる人は、ほんの一握りの人たちだけです。

先生に出会えた奇跡を実感します。この上なき幸福を感じます。大幸運の下に生かせていただいていることを、確かに実感しています。

今しかない生を、この今の今、生かせていただいているということに対し、ありがたい気持ちです。

この気持ちに酔わずに、私は、そもそもの勉強量が全然足りないので勉強のほうも頑張ります。

最後に、大掃除の話に戻りますが、今回、たくさんのお時間を使ってしまいました。もっとやりたい、と思いつながり帰路につきました。

前回の清掃当番のK.H.さんが、私の気になった「雨の跡が消えない」という思いを解消してくださったこと、とても嬉しく思いました。

今回は大掃除用に、大きめのデッキブラシを持って行きましたところ、役に立ちました。(特に、入口～1階～2階の階段と踊り場) 階段のレールも、デッキブラシで、溝がきれいになりました。少々大きいので、自宅に持ち帰ってしまいました。私は、土曜日に英語稽古受講のため、銀座書齋に通っておりますので、もし、今後、お使いになりたい方がいらっしゃれば、私が稽古受講時に持っていくことが可能です。ぜひ使っていたいただきたいと思います。ただ、少々大きいので、銀座書齋で保管するのは難しいかなと思います。それについて悩みます。先生にご相談させていただきます。

以上で、「第4回・銀座書齋入居ビル清掃活動レポート」を終了致します。